

スタッフ通信

「障がい者雇用の適材適所」	就労支援専門員 H	Vol.237	11月
<p>企業担当として入職し、雇用相談やセミナー等啓発活動を行い、約1年が経ちました。以前は障がいのない方を対象として就労支援をしており、「適材適所」を念頭に業務をしていましたが、このことは障がい者雇用についても同じだと感じています。</p> <p>労働人口が減少する中、少人数精鋭で生産性をいかに上げていくのかという課題は、障がい者雇用においてもいえることです。企業は人材育成に力を入れ、スキルを活かして最大限力を発揮してもらいたいと願っています。多能工でマルチタスクが可能な人材は、企業にとって配置しやすく戦力として期待されますが、ずっとフルパワーを求められます。</p> <p>そういった現状の中、以前まで障がい者雇用は無理と思われた企業も、法定雇用率が上がり本腰を入れて雇用を検討するようになってきました。「障がい者雇用のために仕事を切り出す」＝「無理に仕事を作る」のではなく、社内の業務を細分化し、部分的にそれが得意な方にやっていただくという采配が、結果として本来やるべき仕事に専念できる環境となり、効率化や生産性の向上に繋がります。</p> <p>障がいの種別は様々ですが、「障がい」とは「人によるスキルの偏り」と置き換えると分かりやすいのかなと思うようになりました。マルチタスクが難しい方が多くいます。「軽作業」や「事務補助」など漠然と切り出すのではなく、「これをやらしてもらえたら他の人が楽になる」という視点で、その偏りを活かす場所（適所）を探すことを当センターでもサポートしています。</p> <p>働く人にとって、必要とされたいという思いは、障がいのあるなしに関わらず同じだと思います。いろいろな企業に訪問する際、障がいのある方が働きやすい会社は、働いている方もプライドと愛社精神を持たれているのを感じます。とある企業の障がい者雇用担当の方は、「ありがとう」という言葉が現場で飛び交っていてとても気持ちが良いとおっしゃっていました。</p> <p>企業として、その気持ちを大切に、成長を促していくことで、適所における適材が育っていく、それが相互の成長に繋がる、そんな循環づくりのサポートをし、雇用の推進を図っていきたいと思っています。</p>			